

# 空間の修辞学

## 71の習作

(技法研究と実践)

### Concept

空間操作におけるレトリックの導入を試みる

詩学、文学、絵画、彫刻、音楽、

修辞技法は分野間を横断し

あらゆる芸術に応用されてきた

言葉が限られた音の組合せであるように

建築もまた限られた形態の組合せである

修辞技法を応用することで建築空間も

豊かになるのではないか

私は修辞技法を空間操作に応用することを目的として

71の習作を制作した

### 最終成果物

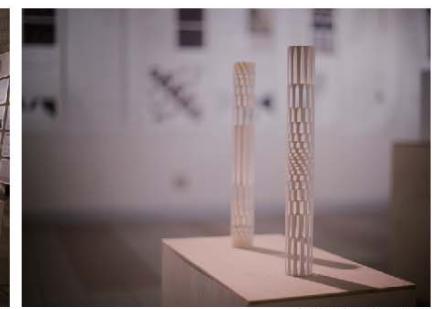
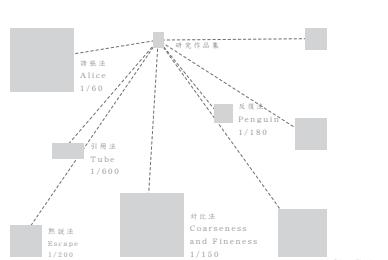
#### 展示 Exhibition

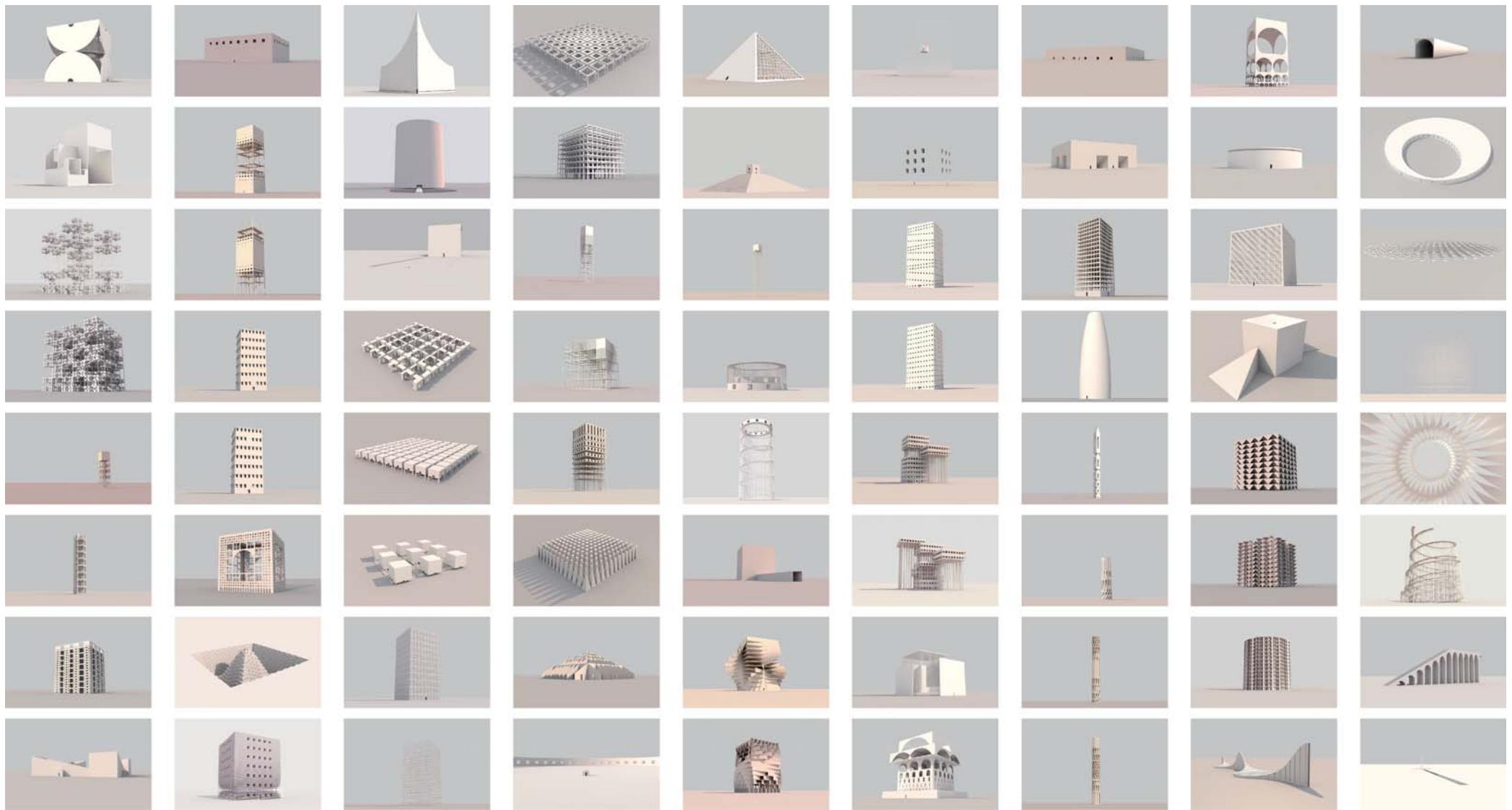
71の習作を制作したうえで二年間の研究内容を  
展示形式で発表した。

展示内容は、71の習作(右後ろ)・9の作例と修辞  
技法体系図(左後ろ)・8の模型(手前)、そして、習作  
の詳細説明と研究をひとつの本にまとめたものであ  
る。

#### 一冊の本 A book

71の習作の外観・内観・詳細説明と技法各種の部  
分の仕方など研究してきたこと習作を通して学んだ  
ことを記録として一冊の本にまとめた。習作がまだ  
足りない部分や分析しきれていない部分がいまだあ  
るが今後の展望も含めて『空間の修辞学』と  
いる。





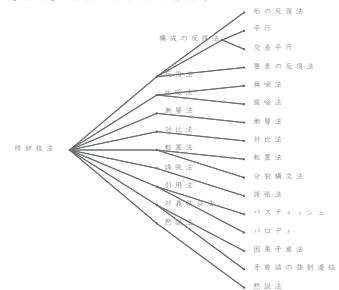
#### 研究過程 Research process

当研究は、修辞学の歴史と先行研究を参照しながら芸術全般（建築様式等）との密接な関係性について理解を深めることからはじめた。修辞技法各種の定義と効果、そして、構造の分析は佐藤信夫の『レトリック辞典』を起点におしすめ体系化。次に、ドローイングと試作模型の制作し、最後に、自ら体験した空間を修辞学の観点から分析したところで技法研究から習作の制作へと姿勢をかえる。

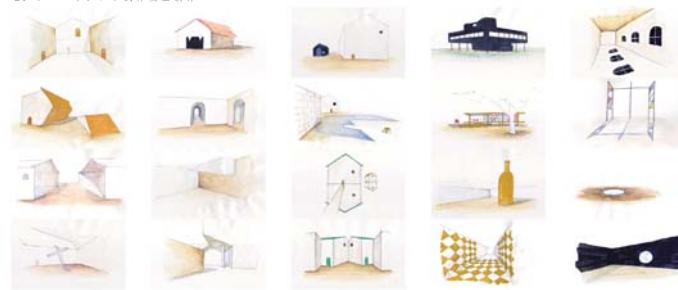
#### 4.7.1 の習作 Etude 7.1

前述した技法研究ふまえたうえで 7.1 の習作を制作。各種修辞技法の効果をより純粹なかたちで確認するために出来るだけ簡単な幾何学を用いて空間構成をおこなう。また、複数の技法を組合わせつつ習作を制作することで簡単な幾何学の空間構成においても多様な効果を生むことを確認した。今回の提出物では、7.1 の習作すべてを説明することが出来ないため一部抜粋する。

#### 1. 技法研究-歴史・先行研究の分析- 修辞技法体系化



#### 2. ドローイングや試作模型制作

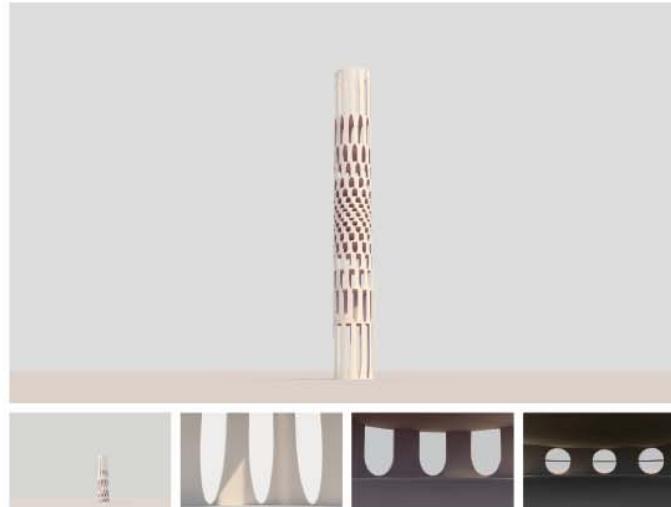


#### 3. 空間体験を修辞技法の観点から分析



## 引用法 Allusion

既存の物事に変形を加えもしくは変形を加えずに自身の作品に取入れる技法。Allusionは「もどりで冗談をする」が原義である。作例として挙げたものは構造面での妥当性から引継がれてきたアーチの構成をひっくりかえて後用した。また、段階的に変形を加えていくことは複層法でありTube2とTube3はTube1の構成を反転させて変わるものなので構成の反復法(平行交叉)も利用している。複数の手法を組合せた作例ともいえるだろう。

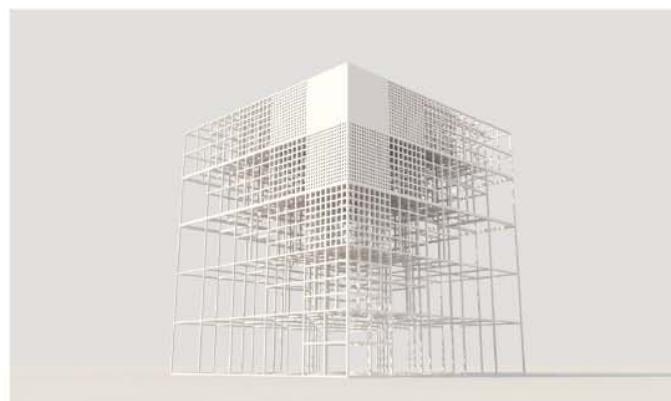


## 漸層法 Climax

段階的に形態や空間やそれらの構成を変化させていくことで秩序と変化を同時に強める技法。

作例として挙げたものは、柱と梁を段階的に変化させることで全体に秩序と変化をもたらして強調した。

井上ひさし  
『いとじのプリジット・ボルト』



## 対比法 Antithesis

対称性のあるふたつの要素・形態もしくはそれらの構成を対照することで相互を強調する技法。また、対比法は論理の矛盾を争んだものではないからして対義結合法とは区別される。

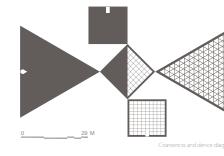
『長屋の参入は主人の神をして萎らねば。近位の参入勢ひなき大人を乗せ。勢いよく駆け出せり。』  
井内透造  
『細君』



Example sentence

## 転置法 Hyperbaton

言語においては、自然なグループを成していた言葉を多々切離す、もしくは並び替えること。形態と形態もしくは空間と空間を正常な位置関係から洗脱させることにより真和の効果を与える技法。作例として挙げたものは、立方体と大体もしくは建築物と建物における正常な位置関係から立方体を切離すことで見慣れた立方体の建築物に真和の効果をえた。



Example sentence

Geometries and device diagram

しろさあの、鳴と脚とあかさ、鳴のねさなる、木の上にあそびつつ、魚をくふ

『伊勢物語』  
井集高見  
『日本文選』下



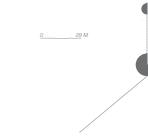
Example sentence

Geometries diagram

## 熱説法 Aposiopesis

充結した形態や空間もしくはそれらの構成から部分を欠かせることで欠かす部分を強調する技法。欠かす部分は欠かしていること(存在していないこと)によりむしら空虚の対象となる。

作例として挙げたものは、地面を40mの円錐でくりぬき空にむかう椅子を立てることで椅子のさきを意識させている。



## 対義結合法 Oxymoron

論理が不整合もしくは矛盾するふたつの形態や空間を組合した上で、不整合や矛盾をそのまま表現として取入れる技法。作例として挙げたものは、均等に並べた開口から様々な光の模様がうみだされることで因縁の矛盾が取入れられている。

ぼくはふさふさとした毛の下に彼女の手をうりあてて握った。それが彼女の手を握る手に冷たく氷のように感えていた。

倉田由美子  
『紫ヶ女』

Example sentence

Geometries diagram

Rhythmos

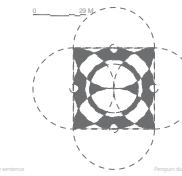
Example sentence

Rhythmos diagram

## 反復法 Repetition

形要素・構成を適切に繰り返すことによりそれを強調する技法。反復法の種類は多岐にわたり形の反復法・要素の反復法・構成の反復法また多岐に分化される。

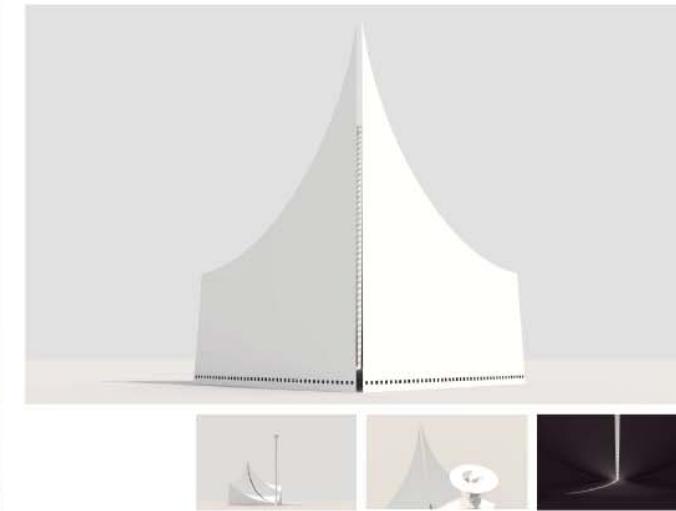
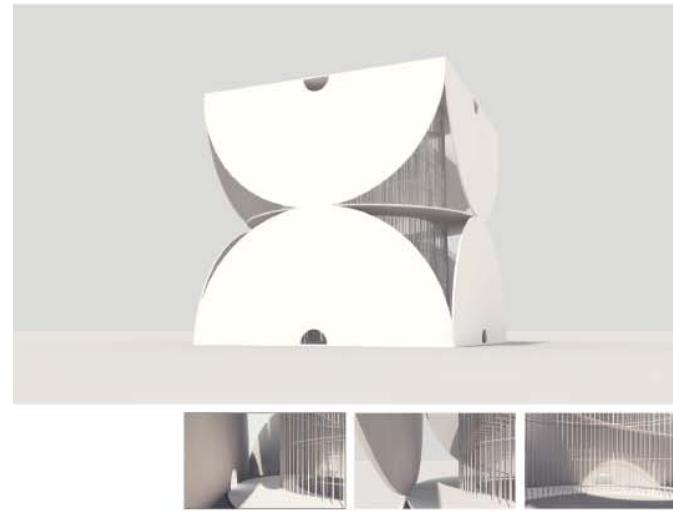
谷川後太郎  
ことばあそびうた



## 換喻法 Metonymy

形要素により原因を連想させる技法。比喩法の下位概念にあたるが換喻法とは区別される。

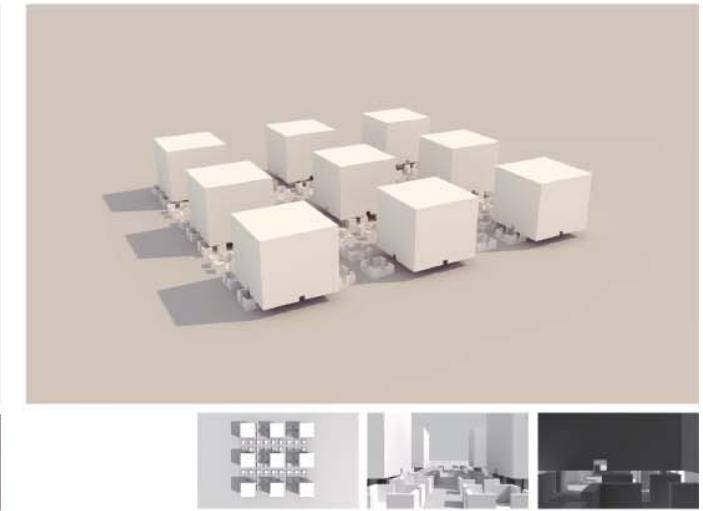
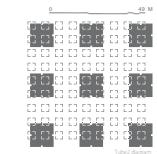
作例として挙げたものは、立体で「ほのかれたような形態・空間が巨大な立体を連想させている」。面に伸びていく螺旋階段や形態に開けられたストリットはそれぞれ中心点と弧をあらわしている。



## 提喻法 Synecdoce

部分で全体を部分で全体を連想させる技法。比喩法の下位概念にあたるが提喻法とは区別される。

パンのみにて生くるにあらず  
『詩約聖書』



## 修辞法体系図 System diagram of rhetoric

71の習作で使用した修辞技法を体系化した。体系図を見てもればわかるように修辞技法を利用することで単純な幾何学形態の空間構成においても多様な結果をもたらすことがわかる。修辞技法は、形式主義に限ることなく制作者の空間構成において重要な「手がかり」を教えてくれるものといえるものではないか。修辞学の研究さえしていれば小説家になれるわけではないことと同じように、修辞技法を獲得したからといって必ずしも空間の魅力をうみだせるわけではない。しかし、確実に確実としてふわふわとしていた「空間の魅力」といったものに、「空間の修辞学」がささやかながらも貢献をしてくれたはずである。

## 修辞 技 法

